

母がぼくにくれるもの

母の本を読む声は

ぼくの気持ちをやさしくしてくれる

本の主人公のような気持ちにもなる

ようち園の時

ふとんに二人ならんで

まくらの上に本を置いて

読んでくれた母

ぼくはくつつきたくなつた

本を読んでもらうのも一つの楽しみだった

それ以上に

母のとなりにいる時間が好きだった

今、ぼくは五年生

図書館のボランティアで

読み聞かせに来てくれる母

クラスみんなに

本を読んでもくれる母

背が高い方のぼくは

後ろの方で安座をして聞いている

きよりは遠いけれど

心はすぐそばだ

母の本を読む声は

ぼくの気持ちをやさしくしてくれる

さらに気持ちを強くもしてくれる